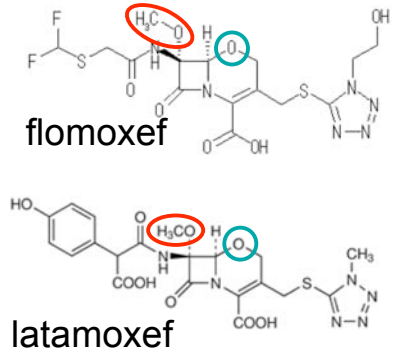
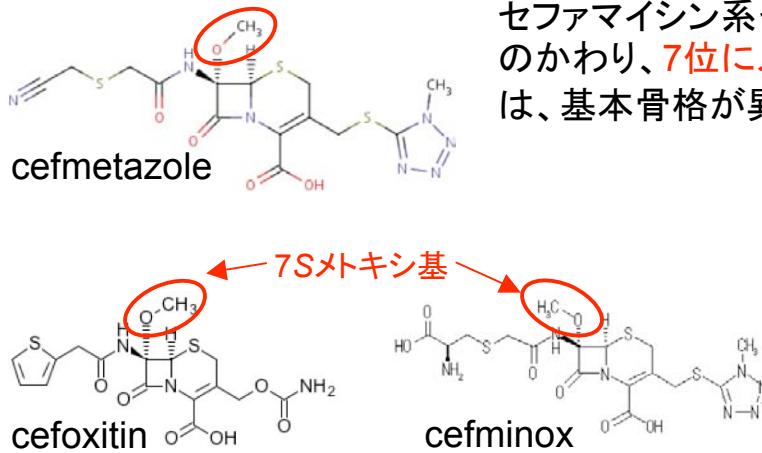


オキサセフェム



オキサセフェム系は、SがOに置換している点の特徴であるが、セファマイシン系と同様に7S位にメキシ基を有し、その点で、セファロスポリン系とは基本骨格が異なり、セファマイシンに近い。1990年頃には、抗菌スペクトルからオキサセフェムであるフロモキセフを「第二世代セファロスポリン」、ラタモキセフを「第三世代セファロスポリン」として分類する等、一部に混乱が見られた。現在では、これらは、オキサセフェムとして、セファロスポリン系からは区別され、フロモキセフは、「第二世代セファロスポリンと同等」、ラタモキセフは、「第三世代セファロスポリンと同等」として扱われることが多い。

セファマイシン



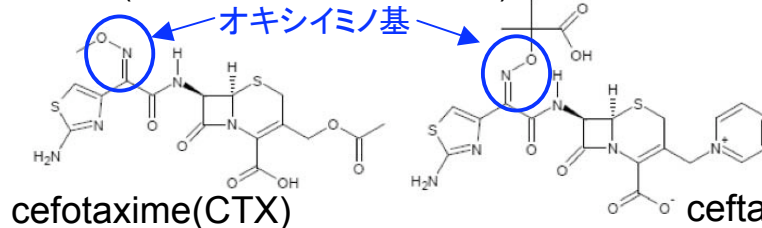
セファマイシン系やオキサセフェム系はオキシイミノ基を保有せず、そのかわり、7位にメキシ基を保有し、その点で、セファロスポリン系とは、基本骨格が異なる。

1990年頃には、抗菌スペクトルからセファマイシンであるセフォキシチンを「第二世代セファロスポリン」、セフォテタンを「第三世代セファロスポリン」として分類する等、一部に混乱が見られた。現在では、これらは、セファマイシンと分類され、セフォキシチンの抗菌スペクトルは、「第二世代セファロスポリンと同等」、セフォテタンは「第三世代セファロスポリンと同等」として扱われることが多い。

セフェム

セファロスポリン

第三世代(多くはオキシイミノ基を持つ)



オキシイミノ基としては、カルボキシメトキシイミノ基(CTX)やカルボキシプロポイミノ基(CAZ)などがある。

第二世代(一部は、オキシイミノ基を持つ)

